

都市再生整備計画

あかしえきしゅうへん だい かいへんこう
明石駅周辺地区(第1回変更)

ひょうごけん あかしし
兵庫県 明石市

令和8年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	□
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	□
まちなかウォーカブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	兵庫県	市町村名	あかし市 明石市	地区名	あかしえきしゅうへんちく 明石駅周辺地区			面積	74.6	ha					
計画期間	令和	7	年度	～	令和	10	年度	交付期間	令和	7	年度	～	令和	10	年度

目標

大目標：明石駅と駅周辺施設を含む区域の回遊性を高め、地域の賑わいの創出
目標1：快適に歩ける空間の創出による回遊性の向上
目標2：官民一体となった賑わいのある歩行者空間の創出
目標3：地域交流センター等の整備による明石公園利用者の増加

目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針)
明石市は、大部分が市街化区域となっており、良好な住宅地が形成され、公共交通ネットワークも充実しています。本市の人口は現在も増加が続いており、今後も市街化区域内の人口密度は高水準を維持していくと考えられます。しかし、全国的な傾向同様、本市においても高齢化が進行していくと予想され、都市機能、産業、地域コミュニティ、自治体運営などに大きな影響が出る可能性があります。さらには、近年激甚化する災害への対策は大きな課題であり、引き続き、洪水や津波、土砂災害への対策を行うとともに、今後発生が想定される南海トラフ巨大地震を見据えた安全、安心な市街地形成が求められています。
このような中、「あかしSDGs推進計画」の将来像及び「明石市都市計画マスタープラン」の将来都市像を実現するため、高齢化の進展や多様なライフスタイルの実現などの課題に対応しながら、現在の良好な住環境を維持し、誰もが便利で安心して暮らすことができる持続可能なまちづくりを進める必要があります。
まちづくりの経緯及び現況
明石市では、「あかしSDGs推進計画(明石市第6次長期総合計画)」「(令和3年度策定)」において、「いつまでも、すべての人に、やさしいまちを みんなで」という4つの視点でまちづくりを進めることとし、まちづくりの方向性については、まちづくりにおける経済・社会・環境の三側面において、総合的にバランスよく、相乗効果を生み出せるように取り組むことで、持続可能なまちづくりを進めることとしています。この計画を受けて改定された「明石市都市計画マスタープラン」(令和4年度改定)では、将来都市構造において、1つの中心核と4つの主要地域核を定め、この将来都市構造を中心に重点的に取組を進めており、整備方針では、歩行者空間や公共施設等のユニバーサルデザインを踏まえたバリアフリー化等の取組をまちづくりの方針として掲げていることから、今後は障害者・子ども・高齢者を含む全てのの人にやさしいまちづくりを都市機能の整備を含め、ハード・ソフト両面から進めていくことが求められています。
当地区南側は、本市の玄関口である明石駅からバピオスあかし(再開発ビル)まで屋根付きの歩行者デッキを整備しており、国道2号デッキを通して国道2号南側の魚の棚商店街まで雨に濡れず行き来することができるなど、多くの市民が利用する空間となっていますが、駅東側にあるアスピア明石(再開発ビル)まで繋がっていません。そこで、アスピア明石までの歩道にシェルターを整備するなど歩行者空間を整備することで、駅と2つの再開発ビルを屋根のあるバリアフリーに配慮した歩道で繋ぎ、周辺の回遊性を高め、まちなかの更なる賑わいを創出することが求められています。
また、当地区北側の明石公園は、駅に隣接しており、市内唯一の広域公園として、休息、観賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用に供することを目的に、東播磨地域を代表する豊かな自然に恵まれた公園です。同公園は、将来都市構造における中心核で、本市の中心市街地として、高次都市機能が高密度に集積した地域内にあり、「明石市立地適正化計画」(令和4年度策定)においても、活気と交流が生まれる本市の玄関口としてのさらなる発展を図るため、当公園全体を都市機能誘導区域に設定しています。明石市では、同公園において、県立図書館に併設する形で市立図書館を整備し、長年多くの市民等に親しまれてきましたが、明石駅南側のバピオスあかし内にあかし市民図書館として移転後、当施設は現在閉鎖中です。当施設は耐震強度の不足や設備の老朽化により、既存施設の活用が困難であることから、新施設を整備することにより、明石公園の魅力を向上させ、回遊性や賑わいを創出することが求められています。

課題
・施設同士を繋ぐバリアフリーな通路と歩行者の安全確保
・今後歩行者の増加が見込まれるため、これに対応した魅力ある滞在空間の創出
・明石公園内に交流・地域活動の場や雨天時に過ごせる場所が少なく、これらの機能の充実

将来ビジョン(中長期)
①明石SDGs推進計画(明石市第6次長期総合計画)(令和3年度策定) 計画期間：2022～2030年度
・経済面では安心の暮らしの向上を図るため、市民やまちの経済的な基盤が安定的に発展していることが重要であり、「賑わいと活力が持続するまち」を目指す
・社会面では、SDGsの理念である誰一人取り残さない社会を実現するため、「すべての人が助け合い安心して暮らせるまち」を目指す
・環境面では、安全で快適な暮らしを将来にわたり引き継げる「人にも自然にも地球にもやさしいまち」を目指す
②「明石市都市計画マスタープラン」(令和4年度改定)
【誰もが安全・安心に暮らせる、人にやさしい都市づくり】
・地域住民や多種多様な主体がまちづくりに参画し、世代や分野を超えて繋がり合う共生社会(インクルーシブ社会)の創出を目指します。
・ユニバーサルデザインに配慮した都市整備を行い、誰もが安全で快適に移動しやすく、暮らしやすい都市づくりを進めます。
【まちの魅力により活力と交流が持続する都市づくり】
・教育、福祉、情報、就労など生活に必要な機能を有する施設の維持・管理や公共交通等によるアクセス性の維持・強化を行い、多種多様な世代が交流する拠点としての維持を図り、賑わいの創出を図る他、市内外との交流が盛んな都市の形成を目指します。

都市構造再編集中支援事業の計画

都市機能配置の考え方
・各地域の拠点となる駅周辺の都市機能誘導区域については、既に都市機能の集積が進んでおり、区域ごとの地域特性、今後の開発計画、施設の統廃合などの動向を踏まえ、既存施設の維持や集積を図る。
・都市機能誘導区域外については、日常的に利用される施設を幅広く配置し、生活利便性の維持・向上を図る。
都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等
・都市再生土地区画整理事業や都市・地域交通戦略推進事業の特例の該当なし

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
歩行者空間の快適度	%	歩行者空間が快適であると感じる人の割合(アンケート)	歩行者空間の整備による回遊性の向上に伴う歩行者空間の快適度の向上	74	R6年度	80	R10年度
滞留時間(駐車時間)	百時間/月	アスピア明石内有料駐車場における半日(7時間以内)利用者の駐車時間	歩行者空間の整備による回遊性の向上及び地域交流センターの整備利用者の創出に伴う滞留時間の増加	707	R6年度	721	R10年度
歩行者・自転車通行量	人／日	アスピア明石西側入口前道路及び地域交流センター前道路の歩行者・自転車通行量	歩行者空間の整備による回遊性の向上及び地域交流センターの整備による来街者の増加に伴う歩行者・自転車通行量の増加	16,824	R6年度	17,300	R10年度

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
【駅周辺施設同士の利便性向上】 ・歩行者空間の整備		【基幹事業】(道路)市道明石中央63号線歩行者空間整備
【地域交流センター等の整備による明石公園利用者の増加】 ・旧施設の解体、地域交流センター及び屋外空間の整備 ・全天候型でいつでも快適に過ごことができる空間の整備		【基幹事業】(高次都市施設 地域交流センター)(仮称)旧市立図書館跡地地域交流センター整備 【基幹事業】(公園)芝生、広場、休憩所等整備
【快適な歩行空間による更なる賑わいの創出】 ・歩行者空間の整備による歩行者の増加を生かしたイベントの実施		【基幹事業】(道路)市道明石中央63号線歩行者空間整備 【提案事業】(事業活用調査)効果測定・事後調査 【提案事業】(まちづくり活動推進事業) イベントの企画
その他		

様式(1)-④-1

(金額の単位は百万円)

...A

30 ...B0...C[illegible]

明石駅周辺地区(兵庫県明石市) 整備方針概要図(都市構造再編集集中支援事業)

